

# パンデミックと日本共産党の真価——党創立99周年記念講演

日本共産党幹部会委員長 志位 和夫

パンデミックは、政党の危機に対する姿勢と能力を問うものとなった

第一。科学的姿勢に立ち、国民の苦難軽減に献身する党

- ・安倍・菅政権のコロナ対応の「3つの致命的欠陥」と東京五輪の強行
- ・日本共産党の奮闘と、パンデミックのもとでの前向きな希望ある変化  
命と暮らしを守る積極的提言、五輪バラ中止の提起の先駆的意義
- ・国民の運動と共同し、さまざまな分野で前向きな希望ある変化が  
全国の草の根で、国民の「SOS」に耳を傾け、ともに解決するとりくみ

第二。日本の政治の歪みの根本にメスを入れる変革の党

- ・新自由主義はもう終わりにしよう——「ルールある経済社会」が抜本的対案  
新自由主義の破たんは、もはや誰の目からみても明らかになった
- ・財界言いなりに、ボロボロになった道を暴走する菅政権に、国民の厳しい審判を  
財界との腐れ縁が一切ない日本共産党をのばすことこそ、暮らしを良くする力
- ・新自由主義からの転換の動き——アメリカから伝えられた二つの発言  
「異常なアメリカ言いなり」をただす——「二重のとりくみ」をすすめる党
- ・米軍機による低空飛行の被害が激増——日本の空の主権をとりもどそう  
辺野古新基地はつくれない——「オール沖縄」への連帯を訴える
- ・「アメリカ言いなり」をどうやってただすか——「二重のとりくみ」に力つくす

第三。世界の主流に働きかけ、逆流とたたかう党

- ・ 本流の力強い前進——核兵器禁止条約の発効、植民地主義の過去を問う世界の流れ
- 核兵器禁止条約の発効——「ある種の革命」が起こった

植民地支配の過去を問う世界的流れの発展——日本政府の態度が問われている

- ・ 米中の覇権争い——国際社会はどう対応するべきか

もつとも抑制すべき道——軍事対軍事の対立と、軍拡競争の悪循環

もつとも推進すべき道——国際法という共通のルールにもとづく平和的共存

中国に対してどう向き合うか——排他的でなく、包括的アプローチを

第四。選挙で示された国民多数の意思にもとづき、国民共同の力で社会変革を進める党

- ・ 段階的發展、多数者革命、統一戦線——現在から未来にいたる一貫した立場

- ・ 市民と野党の共闘の画期的意義——反共攻撃による分断を打ち破ろう

市民と野党の共闘——党の歴史のうえでもかつてない画期的な取り組み

どんな場合でも平和的・合法的に社会変革を進める——日本共産党の確固たる立場

第五。資本主義をのりこえる未来社会をめざす党

- ・ 米国の高校生から寄せられた社会主義と日本共産党への共感のメール

- ・ 『資本論』の革命的真髓と、日本共産党の歴史的役割——新版完結によせて

新版『資本論』の完結——100周年を迎えるにふさわしい記念碑的な仕事に

「肯定的理解」「必然的没落の理解」——資本主義の生成、発展、没落の法則を明らかに

- ・ 「人間の自由」「人間の解放」——日本共産党という党名はこの理想と結びついている

新しい政治変革のうねりのなかで党創立100周年を迎えよう